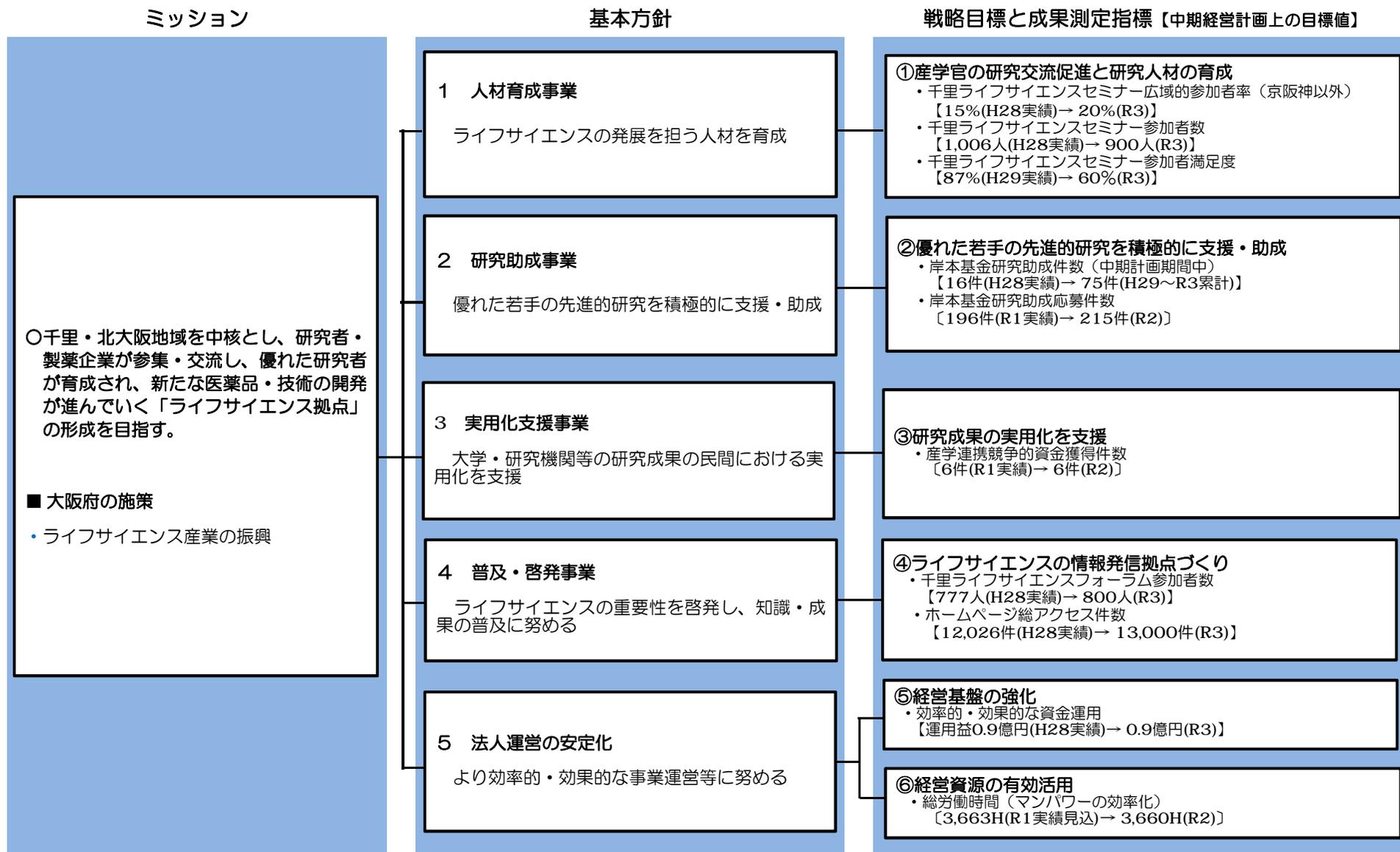


法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
作成（所管課）	商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和元年度の経営目標達成状況及び令和2年度目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)											
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 (H29～R3)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						実績[見込]			R2目標	最終年度 目標	
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナーの広域的参加者率 (京阪神以外からの参加者数/全参加者数)		%	25	19.6	20	-	-	-	-	
						21.8					
	千里ライフサイエンスセミナーの参加者数		人	5	918	900	↓ 240	30	900	900	
						959					
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										具体的活動事項	
最重要とする理由、 経営上の位置付け	<p>○財団は設立当初より、ライフサイエンス分野の発展を担う創造性・独創性豊かな産・学・官の研究人材の育成・質的向上を支援する事業を特に重要な事業と考えている。</p> <p>○前計画(H24～H28)の実績を見ても千里ライフサイエンスセミナーや新適塾の参加者満足度調査とも一定の評価が確立してきた。そこで千里の地から全国への情報発信を狙いとし、旬のテーマを選び全国の第一線の研究者を招いて実施しているセミナーを最重要目標としたい。</p> <p>○この場での触発を通じ、新たなイノベーションを生み出す若手研究人材の裾野を広げていくことこそが、財団の設立精神である「知の交流拠点」を実現したものであることから、産学官の研究交流促進と研究人材の育成を目指したセミナーへの参加者数を、最重要の成果測定指標とした。</p>										
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○企画委員会で各委員(アカデミア・企業の21名)から旬のテーマ提案を募り、協議の上、毎年5テーマを選定し、これらのテーマに関する日本を代表する研究者をコーディネーター候補に選定。当該コーディネーターに、発表者選定を委任する運営を確立し、魅力あるセミナーの企画を行っている。</p> <p>○今後も、積極的な広報活動や新鮮でエキサイティングなテーマ設定、当日の意見交換の場の確保などにより、参加者及び満足度の安定的な確保を図るとともに、全国的なライフサイエンスの拠点として広く認知され、より幅広い人材の交流がなされるよう、取り組んでいく。</p>										
活動方針	○事業の企画等を検討する企画委員会において、上記を踏まえた十分な検討を行い魅力ある旬のテーマ設定やコーディネーター・講師の選定を行う。										
	○セミナーの個別テーマについては、企画委員会で十分協議し、各テーマと担当コーディネーターを具体的に選抜。										
	○北海道から九州まで各大学、研究機関の第一線研究者から選抜し、全国から幅広く参加者を募っている。また、若手研究者からの発表も可能となるよう、発表時間(短時間)を工夫している。										
	○セミナー参加者の増加に向け、関係する学会誌・業界専門誌及び各ホームページなどへの無料掲載等により周知・広報に努めている。										

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 (H29~R3)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績[見込]			R2目標	最終年度 目標		
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナーの参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/全回答 （「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」 +「役に立たなかった」）		%	10	89	88	89.3	10	-	60	R1の実績値を目標値に設定	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。
						89.3						
② 優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成	岸本基金研究助成件数(中期計画期間中)		件	5	15	15	15	5	15	累計75	中期経営計画のR2目標値 ・寄付額30,000千円、1人 当たり助成額2,000千円	審査員の負担軽減を図りつつ厳正な審査を行い、採択レベルの向上を図る。
						15						
③ 研究成果の実用化を支援	産学連携競争的資金獲得件数		件	10	234	250	215	10	-	-	H30、R1の2か年実績の平均値を目標値に設定	財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。
						×196						
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	産学連携競争的資金獲得件数		件	15	5	6	6	15	-	-	H30、R1の2か年実績の平均値を上回る目標値に設定	AMED等の公募情報について全国各地で説明会を開催するとともに、財団コーディネーターが獲得に向けて研究者やベンチャー企業等の相談に適宜サポートを行う。
						6						
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数		人	10	690	740	↓490	10	-	800	感染症対策のソーシャルディスタンスに配慮し、会場を変更の上、1講演の参加者数を70人とし、7回分を見込んだ。	引き続き新規のクラブ会員獲得を図るとともに新で魅力的な講演テーマ、講師の選定を行い、積極的に参加者の募集を行う。
						×730						
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	ホームページ総アクセス件数(月平均)		件	5	10,491	12,000	10,000	5	-	13,000	新型コロナウイルス感染症の拡大防止による事業中止に伴い、大きく減少した直近の実績を踏まえ、R1実績とほぼ同数の目標値を設定	財団HPのコンテンツ充実、新規セミナーの掲載案内、メルマガへの掲載依頼等を通じ、財団HPへのアクセス件数の増を図る。
						×9,986						

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
-----	----------------------

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 (H29～R3)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績〔見込〕			R2目標	最終年度 目標		
⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用		億円	10	1	0.9	↓ 0.85	10	0.9	0.9	長期安定を基本に効率的・効果的な資金運用に努めるが、大幅な豪ドル安が続いていることを踏まえ、目標から5百万円減0.85億円の運用益を目指す。	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。
						0.92						
⑥ 経営資源の有効活用	総労働時間(マンパワーの効率化)		時間	5	3,680	3,670	3,660	5	-	-	総労働時間のさらなる縮減を目指す。	事務事業の効率化により、常勤職員(役員・管理職、製薬企業出向者を除く)の総労働時間数の縮減をめざす。
						[3,663]						

【凡例】

- ・☆はR2からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

CS調査の実施概要

○ 令和元年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	959	年5回開催

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組	R2年度にめざす状態
セミナー開催時に、参加者に対しセミナー内容に関するCS調査を行った結果、「大いに役立った」+「役立った」が89%（（「大いに役立った」+「役立った」）/全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」））であった。	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、引き続き魅力ある旬のテーマ、講師の選定を進め、参加者の今後に役立つセミナーを維持していく。	中期経営計画（H29～R3）により、H29から新規に設定した目標であり、安定的なセミナー参加者の満足度（「役に立った」以上）を確保する。

○ 令和2年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	240	年3回開催

・CSに関する令和2年度目標（再掲）【※ 成果測定指標の場合】

戦略目標	成果測定指標	単位	H30実績	R1目標	R2目標値	CS調査の数値を戦略目標に設定した理由及び目標値の根拠
				実績（見込）		
産学官の研究交流促進と研究人材の育成	セミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/ 全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」）	%	89	88	89.3	（設定した理由） セミナーは、当法人の設立目的を実現していく上で重要な事業であり、その「参加者数」を最重点目標としているが、参加者がセミナーの内容に満足したかどうか、即ち、「大いに役立った」「役立った」と感じてこそ、研究の交流や研究人材の育成といった効果が生まれるものである。そのため、引き続き「大いに役立った」「役立った」を具体的な満足度の指標とする。
				89.3		（何をめざすのか） 高い満足度を安定的に確保していく。
						（目標値の根拠） 引き続き、高い満足度を安定的に確保できるよう、R1の実績値89.3%をR2年度の目標値に設定する。

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の目標値	R元年度の 実績値〔見込値〕
岸本基金研究助成応募件数	件	250	196

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> 概ね一貫して増加してきた応募件数であったが、平成29年度の271件をピークに2年連続で減少しており、他の同様の研究助成も減少傾向にある。これは、全国的に博士課程への入学者が減少しており、ライフサイエンスの若手研究者が減っていることが大きな要因と考えられる。
-----------	--

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 応募論文の水准确保には一定数の応募件数が必要であるが、あまりに多すぎると審査員に負担がかかり、審査の正確性に影響を及ぼすおそれがある。実際、過去ピークの271件の応募時には、審査員から審査に時間がとられるとの意見があった。 今後とも、適正な応募件数が確保できるよう、引き続きHP、学会誌等への掲載を行っていくとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に対し、学内での周知、案内を依頼する。
---------	--

〔2〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の目標値	R元年度の 実績値〔見込値〕
千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	740	730

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> R元年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、最後の2回を中止したことにより、フォーラムの参加者数は目標値を僅か10人下回った。 しかし、1回当たりの参加者数で見ると、実施済の9回のフォーラムの実績で、参加者数が81人となり、目標値の67人を大きく上回っている。
-----------	---

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも従来同様魅力あるテーマ選定に工夫を凝らし、参加者数の増を目指すとともに、フォーラム会員の増に向けホームページや他の広報媒体を活用し、引き続き会員募集のPRに努める。 今年度は新規のより若い会員を獲得するため、無料の体験フォーラムを開催する等、会員募集に注力したいと考えている。
---------	---

■ 目標値未達成の要因について

〔3〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の目標値	R元年度の 実績値〔見込値〕
ホームページ総アクセス件数（月平均）	件	12,000	9,986

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度以降総ページアクセス件数は12,000件を下回り、3年連続で目標値を達成できていない。財団HPに掲載していた実用化支援事業のセミナー、交流会等の募集案内が平成30年度からなくなったことなど、HPの掲載コンテンツが減少したことが考えられる。 ・R元年度は国際シンポジウム開催案内や他団体のメルマガへの掲載依頼を行っても、これにかかるアクセス件数の増は見られなかった。また、セミナー動画配信へのアクセス件数が前年度より減少した。 ・また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い多数人を集客する財団行事を2月中旬以降すべて中止したことにより、年度末のアクセス件数が大きく減少したことも未達成の大きな要因である。
------------------	--

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーの動画配信には講師との著作権の調整が不可欠であり、年々、動画配信を拒否することが多くなっており、動画コンテンツの魅力がなくなっていること、また、動画掲載にかかる費用や労力、閲覧ソフトの安全性などを考慮した結果、R2年度以降、新たなセミナーの動画配信については中止することとした。 ・今後、動画配信に替わる魅力あるコンテンツの充実を図るとともに、時宜にかなった最新情報の発信に努め、ホームページのより一層の充実に努める。 ・さらに、引き続き近畿経産局、関西医薬品協会等公的団体に対し、当該HPのイベント情報ページにセミナー等の財団行事の掲載依頼を行うとともに、財団HPの無料リンク先の拡大に努め、メール会員の増を目指す。
----------------	--

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

（※大阪府から成果測定指標の変更を提示した場合は除く）

〔1〕

●変更前

R元年度の成果測定指標	単位	R元年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナーの広域的参加者率	%	20

●変更後

R2年度の成果測定指標	単位	R2年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナーの参加者数	人	240

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由

・千里ライフサイエンスセミナーは、ライフサイエンス分野の研究人材の育成・質的向上を支援する重要な事業であるため、セミナーを評価する成果指標として「広域的参加者率」、「参加者数」、「満足度」の3つを設定している。

・このうち、「広域的参加者率」については、当法人は北大阪においてライフサイエンスの拠点となることを目指しており、遠方であっても参加しようと思わせる求心力があつてこそ拠点と言える。そうした意味では、単に多くの参加者を集めるだけではなく、旬のセミナーを企画することで首都圏や九州といった遠方からも参加を得ていくことが重要な意味を持つと考え、京阪神以外の遠方の人であっても是非参加したいという内容のセミナーであることを客観的に反映する指標と考え、最重点の成果指標と位置付けてきた。

・しかし、新型コロナウイルス感染症が収束の方向にあるものの、府県間移動や遠距離出張の自粛、さらに参加人数の絞りこみなどにより、大阪までセミナーに参加する人は大きく減少することが予想され、「広域的参加者率」は研究人材の育成や研究交流が図られたことの正しい評価にはつながらないと考える。このため、R2年度においては「広域的参加者率」を成果測定指標からはずし、「参加者数」を最重要の成果測定指標に変更することとする。

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値〔見込値〕	R2年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナーの参加者数	人	959	240

マイナス（現状維持）目標の考え方	引き続き、魅力あるセミナーの企画や積極的な広報に努めていくが、感染症対策のソーシャルディスタンスに配慮し、1 講演の参加者数を 80 人とする。また、既に開催中止を決定した 2 回のセミナーは来年度に開催することとし、R 2 年度のセミナー開催は 3 回とした。 80人×3回 = 240人
------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値〔見込値〕	R2年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/ 全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」）	%	89.3	89.3

マイナス（現状維持）目標の考え方	R元年度の実績を踏まえ、引き続き、高い満足度を安定的に確保できるよう、R元年度の実績値 89.3% を目標とする。
------------------	--

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値〔見込値〕	R2年度の目標値
岸本基金研究助成件数	件	15	15

マイナス（現状維持）目標の考え方	・本助成事業の財源は寄付金30,000千円であり、1人当たり助成額2,000千円を踏まえ、15件（中期経営計画のR2年度目標値）とした。
------------------	--

〔4〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値〔見込値〕	R2年度の目標値
産学連携競争的資金獲得件数	件	6	6

マイナス（現状維持）目標の考え方	H30（5件）、R1（6件）の2か年実績の平均値5.5件を上回る6件を目標値に設定
------------------	---

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値〔見込値〕	R2年度の目標値
千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	730	490

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、多数を集客する財団主催行事について本年2月中旬から4月末まで中止したが、その後の感染症拡大の状況を踏まえ、8月末までの財団主催行事についてもすべて中止することとした（4月1日決定）。</p> <p>・月2回の開催は困難であり、R2年度の開催回数は中止の4～7月を除く年7回とするが、感染症対策のソーシャルディスタンスに配慮し、会場を変更の上、1講演の参加者数を70人とする。</p> <p>70人×7回＝490人</p>
------------------	---

〔6〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値〔見込値〕	R2年度の目標値
効率的・効果的な資金運用	億円	0.92	0.85

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>・財団は長期安定的な運営が可能となるよう、元本保証で金利が為替変動型の仕組債を資金運用で活用している。</p> <p>・この仕組債は円と米ドル、豪ドルとの為替水準により変動し、R2年1月以降大きな為替変動が続いているものの、12月までは安定的な為替水準であったため、R元年度は前年度並みの約1億円の運用実績を見込んでいたが、豪ドル安が進みR元年度の運用益は0.92億円に減少した。</p> <p>・本年1月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大により世界経済を取り巻く環境は大きく変動しており、特に豪ドルの回復が期待できないため、R2年度の運用収入は大きく落ち込む恐れがあり、中期経営計画の目標値（0.9億円）から5百万円減の目標値とした。</p>
------------------	--